

チューリップの花芽分化状況について(8月15日現在)

平成 29 年 8 月 16 日

経 営 普 及 課

(農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センターのチューリップ花芽定期観測結果から、今年の花芽分化及びノーズの伸長状況について主要 3 品種のデータを紹介します。

1 供試球根 (調査品種)

農業総合研究所園芸研究センター本場 (砂壤土) 産球根

品種 (系統)	掘取日	球周	初期乾燥	貯蔵	調査球数
プレルジューム (T)	6 月 15 日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵	5 球
イルデフランス (SL)	6 月 15 日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵	5 球
メリーウィドー (T)	6 月 15 日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵	5 球

2 花芽分化の状況

- (1) 本年の花芽分化は、いずれの品種も平年に比べて緩慢で、平年に比べて品種により 2～3 週間程度の遅れが見られる。また、調査個体間のばらつきも多い (添付ファイル表 1、図 1)。
- (2) プレルジュームは雌ざい分化始期 (G1)～柱頭分化期 (G2) のまま停滞、イルデフランスは雌ざい分化始期 (G1)～柱頭分化完成期 (G3) のまま停滞しており、平年に比べて 2～3 週間の遅れ。メリーウィドーは外花被分化期 (P1)～雌ざい分化始期 (G1) で、平年に比べて 3 週間以上遅れている (添付ファイル表 1、図 1)。
- (3) ノーズの伸長も花芽分化と同様に平年に比べて 2～3 週間遅れている (添付ファイル表 1、図 1)。
- (4) 花芽分化開始条件の 1 つであるりん片含水率の低下については、7 月 10 日定期調査では、品種によりばらつきがあるものの、3 品種平均で 58.5 % と平年値 (55.7 %) に比べて高く、過去 9 年では 2 番目に高かった (添付ファイル図 2)。
- (5) 6 月と 7 月の平均気温による花芽分化のタイプは、平年に比べて 6 月の平均気温がかなり低く、7 月の平均気温がかなり高かったため、花芽分化予測図に当てはめると本年は「遅延型」と推測される (添付ファイル図 3)。

3 今後の技術対応等

- (1) 冷蔵計画の策定に当たっては、必ず花芽を確認し、無理の無い計画とする。
- (2) G 段階 (雌ざい形成期) に達していない球根や、G 段階に達していてもノーズが小さい場合には中温処理を行ってから冷蔵を開始する。その際、エチレンガスによる障害を防止するため、腐敗球の除去を徹底し、十分な換気に留意する。

4 具体的データ

添付ファイル「T170815data (花芽)」参照

※ チューリップの花芽分化に関する情報は今回で終了します。